

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
<p>一生懸命がかっこいい！ みんなの夢に一步前進！</p> <p>～笑顔いっぱい！一人一人のよさが輝く学校～</p>	<p>① 基礎・基本の確実な定着と学力の向上 ② 地域の力を利用した特色ある教育活動の推進 ③ 校内研究の充実と教師の資質向上 ④ 豊かな心と体の育成 ⑤ 業務改善・教職員の働き方改革の推進</p>

達成度
A: ほぼ達成できた
B: 概ね達成できた
C: やや不十分である
D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

① 基礎・基本の確実な定着と学力の向上

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	担当分掌 (部)
教育活動	● 学力の向上	・基礎学力の定着	・北波多小基礎学力テストで合格率80%以上を目指す。	・主体的・対話的な学習を取り入れた「北波多小型授業」の定着と改善を図り、「わかる授業づくり」の取組をする。	B	・長期休業中に練習問題を課題に出し、年3回テストをした。合格率80%に満たない学級や教科があった。 ・学力向上アクションプランチェックシートを活用し、「わかる授業づくり」に取り組んだ。	・「北つ子タイム」の時に、合格率の低かった学級に級外職員が入り、担任と一緒に指導をする。 ・めあての提示、まとめ、振り返りを行い、「わかる授業づくり」の実践を継続する。	学び部
		・学習習慣の定着	・学びの約束の指導の徹底を図る。 (児童・教職員のアンケート肯定85%以上)	・「北波多小学びの約束」を全校に提案し、基本的な学習習慣が身につくまで全職員で取り組む。 ・「家読」の取組を学校側からも積極的に保護者に働きかける。	A	・各学期1回ずつ学びの約束週間を実施したことで、子ども達がよく意識できた。学年によっては、できていない項目もあった。 ・保護者が非常に協力的で、詳しく感想を書いてくれるところが多かった。「学び便り」で感想を紹介することができた。	・各学年あまり達成できていない項目や特に力を入れていこうという項目などを職員間で共通理解する。 ・学び便りは、今後も継続する。	学び部

② 地域の力を利用した特色ある教育活動の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	担当分掌 (部)
学校運営	○ 地域や家庭との連携	・学校支援ボランティア連絡協議会を中心とした地域連携の一層の推進 ・学校教育活動の積極的な情報発信	・学校支援ボランティア連絡協議会を開催する。 ・学校評価アンケートで肯定的評価85%以上を目指す。	・「生活アンケート」調査から学年の傾向を知り、保護者と連携して改善に取り組む。 ・学習活動に合った学校支援ボランティアとの連携を推進する。 ・学校便りやホームページを活用した広報活動の充実を図る。	A	・学校支援ボランティア連絡会を開催し、読み語りや折り紙教室などに活用できた。 ・月2回程度はなまる連絡帳や学校だよりで行事や連絡を行った。 ・学校評価アンケートで「保護者、地域と連携できている」と答えた保護者の評価86%であった。	・学校評価アンケートで「懇談会や行事に進んで参加している」と答えた保護者が76%と低かったため、学校だよりやはなまる連絡帳だけでなく、ホームページも積極的に活用を行い、啓発を行っていく。	地域連携

③ 校内研究の充実と教師の資質向上

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	担当分掌 (部)
教育活動	○ 校内研究の充実と教師の資質向上	・友だちと認め合い高め合いながら、自分で考えることのできる児童の育成	・授業研究会を開催し、人権が尊重される授業づくりの視点を取り入れた「深い学び」の実践を行う。	・全学級において、主体的・対話的で深い学びの推進と人権教育の視点を取り入れた授業研究会を実施する。 ・講師を招聘し、理論と実践ふまえた研修会を開催する。	A	・低中高学年グループを中心に、研究授業の指導案検討から、後進会までを全員が実施することができた。校長先生の講評も多く受けながら、無理のない程度に進めることができた。	・「主体的・対話的」に関しては、ひとりりタイムやとだちタイムを多く取り入れることで、受け身にならない授業を実施できていた。しかし、「深い学び」に関しては、序盤に考える時間を確保したり、もう一度ひとりりタイムを設けたりする等して、考える力をつけたい。	研究主任

④ 豊かな心と体の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	担当分掌 (部)	
教育活動	● 心の教育	・自発的、自治的かつ協力する態度の育成	・集団の中で積極的に活動する態度、協力する態度を伸ばす。児童による自己評価85%以上を目指す。	・学校行事・集会行事・学級経営等の取り組みに「自己肯定感を育てる」というめあてで一貫した活動を仕組む。 ・「かがやきタイム」の充実を図り、「仲間づくり」に視点を置いた取り組みを実践する。	A	・定期的なたてわり活動を行うことで、6年生一人ひとりがリーダーとして生き生きと活躍する場ができた。また、委員会活動では各委員会独自の取り組みを協力して積極的に行うことができた。 ・かがやきタイムでは、全校人権教室・学級での授業、全校人権集会を関連させて取り組んだ。教育の日に全校人権教室を開催し、保護者や地域への啓発とした。 ・授業時間が増え、活動の時間を確保することが難しくなってきた。	・かがやきタイムと道徳、特活部の取り組みをさらに関連させることで、子どもたちの自己肯定感を高める。 ・少ない時間でも具体的な目標を達成できるように活動内容を見直したり、児童におおす前に綿密に計画立案を行う。	特活部 生活部	
		・いじめ問題への対応	・「いじめは絶対に許さない」という思いをもって行動する態度の育成	・「いじめに関するアンケート」を実施する。 ・アンケート結果の活用、日常の観察、子ども支援協議会、連絡会での情報交換を行う。 ・携帯電話、スマートフォンの正しい使い方について啓発を行う。	A	・学期に1回の「いじめに関するアンケート」を行った。その結果を、職員連絡会の時間を利用して情報交換を行った。 ・携帯電話、スマートフォンなどの電子メディアの正しい使い方を全校朝会や各学級で話し、啓発を行った。	・スマートフォンの所持率が急増している。正しい使い方の啓発を「よいこのらし」や長期休みの「生活のきまり」などで定期的に行っていく。 ・外部講師を招聘して、保護者への啓発を行う。	生活部	
		・志を高める教育	・自分の夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・児童による自己評価で「学校目標を達成できた」という児童85%以上を目指す。	・学校目標と関連付け、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。年度当初に今年1年の自己目標を立てさせ、振り返り活動を取り入れながら取り組ませる。 ・一人一人に出番や役割をもたせ称賛しながら、所属感や達成感を味わえる経験を積ませる。	A	・全校朝会の時に、校長の話の中で行った。ワークシートを使用して自己目標を立てさせ、学期末ごとに振り返りを行った。 ・学校行事や児童会、委員会活動、クラブ活動、学級活動等で出番や役割を持たせ、所属感や達成感を味わえる経験を積ませた。	・全校朝会の時間を有効に使い、学校目標や夢、自己目標を意識させ取り組みを継続する。 ・学校行事や児童会、委員会活動、クラブ活動、学級活動と教科の内容を関連付けて、発表の仕方や態度などを効果的に指導していく。	教務部
		・健康・体づくり	・運動習慣の改善や望ましい生活習慣の形成	・アンケート調査から運動習慣について、教師による自己評価85%以上と児童による自己評価85%以上にする。	・児童がめあてを意識しながら取り組む学習を実践する。 ・体力テストの結果を考察し、基礎体力の向上を考えた体づくりの内容を充実させる。	A	・できる分だめあてを立てさせ、学習に取り組んだ。 ・できるだけ多くの単元だめあてを立てさせたが、全単元というわけにはいかなかった。	・外で遊ぶ児童は、多いと思われる。しかし、同じ児童ばかりなので、業間の時間も遊ぶようだが、 ・残業が減ってきているので、栄養教諭を中心に効果的な指導法などこれまで以上に共通理解していきたい。	保体部

⑤ 業務改善・教職員の働き方改革の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	担当分掌 (部)
学校運営	● 業務改善・教職員の働き方改革の推進	・勤務の効率化と時間外業務の削減	・徹底した業務改善を進める。 ・時間外業務45時間をこえない。	・定時退勤日の確実な実施を図る。 ・行事の準備や会議の効率化を図る。 ・特に事情がない限り、19時には勤務を終了する。	B	・勤務終了19時は目指したが、時間外業務が平均45時間を超えなかった職員は64%であった。定時退勤日の確実な実施や業務削減を推進することができなかった。	・定時退勤日の確実な実施を図る。 ・業務削減を行い、行事や会議の効率化を図っていく必要がある。	管理部

4 本年度のまとめ・次年度の取組

・今年度は、全ての項目で「ほぼ達成」「概ね達成」という結果となった。全職員が学校目標を認識し、日々の教育活動で工夫した取り組みができたためだと考える。
・次年度に向けて、以下の点を改善したいと考える。①全国・県学習状況調査やCRTの結果から学年において達成状況に差が生じ、「学力の向上」はまだ十分とは言えない。今後は、児童の達成状況に応じた補充の時間を確保し、基礎学力・活用力の定着と向上の取組を強化する必要がある。さらに協働的な学びを取り入れた授業づくりをより一層推進し、主体的・対話的な学びを深めていきたい。②児童の自己肯定感、自己有用感、他者尊重の気持ちを育てる「心の教育」の活動をさらに充実させたい。③「業務改善・働き方改革」については、課題も残っている。一人一人の「働き方改革」への意識を高めることが大切である。業務改善は進んできているが、さらにもう一歩進め、教材研究や研修の時間を生み出せるようにしたい。以上の3点について、ワークライフバランスも十分考慮に入れて、具体的な改善策・向上策を進めていく。

●は共通評価項目、○は独自評価項目